

今回は、最近出荷台数が伸びているSSDの評価・選定ポイントについて紹介します。また、部材の調達につきましても入手困難な状況が続いていますので、その後の情報をお伝えします。

SSDの評価

前々号でお伝えしましたようにSSDは大容量化、低価格化によりHDDからの置き換えが進んでいます。最先端のSSDは、1秒間に100万回の通信を行う(IOPS)実力を持っており、性能に加え、NANDフラッシュやインターフェイス技術などテクノロジーの進化は加速しています。このような背景から、ユーザーの興味はHDD vs SSDでは無く、SSD vs SSD つまりどのSSDが良いかということに変わってきています。今回は、製品にSSDを採用する場合の選定ポイントを紹介します。

・性能について

カタログに記載されている性能は最速性能を示すことが多いですが、例えば右のグラフに示すようにデータ書き込み量が増えるに連れてSSDの性能がどこまで低下するか(最低性能)を把握することが重要です。

性能評価に関する詳細はこちらをご覧ください <http://www.hirotass.co.jp/tester>

・信頼性、耐久性について

現在、多くのSSDはデータ損失、動作不良等の対策が施されているようになってきましたが、全ての製品ではありません。周辺環境温度、供給する電圧(レベル低下や瞬断)等の変化があっても、SSDが正常に動作することの確認が必要です。

また、カタログに記載されている書き込み寿命は、特定の動作における書き込み量を目安としているため、使用条件によりこの目安は当てはまらないことがありますので注意が必要です。そして、寿命に到達した時や近づいた時にSSDの動作がどのように変わるか把握する必要があると考えています。

パソコンとかゲーム機を使用するユーザーはSSDの特性を気にする必要はほとんどありませんが、SSDメーカーや製品にSSDを採用するメーカーはSSDの選定に様々な評価を行っており、弊社のSMART TESTERはその一助となっています。もしSSDの採用を考えており、評価に関するご相談がありましたらお気軽にご連絡ください。



部品調達情報

～長納期化、価格高騰が継続～

➤ 日立金属製 UL規格電線

商社様情報によりますと、UL線の納期トラブルが発生しています。このUL線はベトナムで生産していますが、コロナ感染対策のロックダウンの影響と、船便の不足が原因で現時点でほぼ全てが欠品状況になっています。今後、代替メーカーも納期が逼迫する可能性があります。

➤ 樹脂材料

今年2月中旬に米南部テキサス州を襲った記録的寒波と大規模停電の影響でメキシコ湾岸沿いに集中する化学プラントが一時軒並み停止に追い込まれ、ナイロン、ポリカーボネート、ポリエチレン、フェノール系等の樹脂の供給が滞っているようです。弊社で使用しているコネクタの納期が長期化しており、通常 数日～2週間で購入できていた物が3～4月に悪化しています。今後、ナイロン、ポリエステル系の副資材(梱包資材等)の値上げも予告されている状況です。

➤ 価格高騰

前回お伝えした銅地金は継続して上昇中で3月時点で1,000円/キロを超えました。その他に、トランス、ラインフィルター、ノーマルコイルの価格も上昇しています。

長納期化、価格アップはしばらく続くと予測しておりますので情報収集を強化して対応して参ります。